

FD・SD 活動報告書
2020 年度

羽陽学園短期大学

2020 年度 FD・SD 活動報告書

目次

2020 年度 羽陽学園短期大学の FD・SD 関連事業について	1
2020 年度 FD・SD 推進委員会事業計画	2
令和 2 年度第 1 回 F D S D 研修会	6
令和 2 年度第 2 回 F D S D 研修会	7
令和 2 年度第 3 回 F D S D 研修会	8
令和 2 年度第 4 回 F D S D 研修会	9
令和 2 年度 F D 授業検討会	10
令和 2 年度 F D 懇談会	12
2020 年度 山形県私立短期大学協会主催(山形県未来創造プラットフォーム共催事業) 合同研修会	14
第 26 回 FD ネットワークつばさ FD 協議会	18
2020 年度 教員個人目標に対する自己評価	20
2020 年度 卒業時満足度調査	33
2020 年度 学修成果アンケート (1 年次・2 年次・専攻科)	35
2020 年度 授業改善アンケート (前・後期)	41

今年度は、新型コロナウイルスへの対応のため、いくつかの活動について中止を余儀なくされた。

定例FD・SD懇談会は、新型コロナウイルス感染症予防対策として密集を避けるために中止せざるを得なかった。また、FDネットワーク“つばさ”によって毎年行われてきたFD合宿セミナーや大学間連携SD研修会等の学外研修会も、中止やオンライン開催になった。実施できたのは、学内公開授業・授業検討会と各種アンケート・調査等である。

学内公開授業については、これまで年2回行っていたものを今年度から1回にしてみた。なかなか時間が取れない中、無理に2回行わず、1回だけにして内容の充実を図ろうと考えた。授業を参観する回数も1回とし、12月に1週間の公開期間を設け、その後授業検討会を開催した。新型コロナウイルス感染症予防のために、グループに分かれての検討は実施しなかったが、様々な感想や意見が出された。

授業については、5月の連休明けから遠隔で行ったが、事前にZOOMの講習会を開き、全教職員が参加した。講師は、情報処理専門の教員が務めた。その効果か、初めての教員も無事にこなせたようである。5月の最終週からは対面授業を再開し、以後年度末まで続けることができた。ただし、全員マスクを着用し、座席は原則固定で、机間の間隔を十分に確保し、換気をしっかり行う等の対策をとりながらである。

無事に授業を終了できてほっとしたが、コロナ禍という特殊な状況において、教職員と学生が密接を避けながら教育活動を行ってきたことで、改めてFace to Faceの重要性が感じられた。オンラインでは十分に関わることができない。特に、本学は幼児教育や保育、介護福祉について学ぶ短大である。人と人が関わることを最も大切にする仕事であるのに、大学で人と人が十分に関われないのでは話にならない。

コロナ禍であっても、いや、むしろコロナ禍であるからこそ教職員と学生が密接に関われる方策を考える必要があるのではないか。物理的に密接になれないなら、心理的に密接さを感じさせることが大切なのではないだろうか。

令和2年度 FD・SD推進委員会事業計画

◇事業内容

(1)定例FD・SD懇談会

前年度に引き続き、【別記】の月間目標や懇談会テーマについて各自の取り組みを検証し、意見交換を行う。学生FD推進のため、定例FD・SD懇談会への学生の参加については継続していく。昼食会形式は継続し、金額を抑え、各教員の負担を少なくする。学生分は学校が負担する。また、事務職員目線の懇談会テーマもできるだけ設定し、教職員がお互いの業務を共有できる場にする。

(2)公開授業—授業検討会

公開授業週間については、後期に特定の教員の公開授業か公開授業週間のどちらかを設定する。特定の教員の公開授業については、授業検討会とセットで進める。今年度も引き続き、非常勤講師の先生方にも参加を呼び掛ける。

(3)FD個人目標—自己評価

前年度の自己評価を踏まえ、各教員が年度当初に具体的な目標を掲げ、年度末にその自己評価を行う。目標と自己評価は掲示とFD報告書へ記載し、公表する。

(4)授業評価

すべての授業で行う。専任、非常勤ともに“つばさ”フォーマットの授業改善アンケートを用いる。足りない部分は各教員でオプションの設問を利用する。授業評価の結果をどのように活用するかが課題として挙がっている。

(5)卒業時満足度調査

今年度も実施する。教授会で報告し担当部署には学生の不満を検討してもらう。

(6)FD・SD活動報告書の作成

内容を精査の上、記載事項の取捨選択を行い、紙面のさらなる充実を図る。

(7)学外企画への参加依頼/相談

学外のFD・SD企画、研修などには可能なものに参加し、情報収集に努める。教職員の大学運営への参加意識を高める。

(8)FDネットワーク“つばさ”との連絡

早めにスケジュールを確認し、参加者を募りたい。学生が参加できる事業については、早期に呼びかけ学生の興味を喚起したい。他大学の学生との交流を通して、広い価値観を持った学生を育成する。

(9)新規事業の企画案・学内ワークショップの企画案

- ・教員懇談会、学内ワークショップで「授業改善アンケート、学習成果等アンケートの結果」をテーマにする。
- ・教員懇談会、学内ワークショップへの学生参加。
- ・基礎教養入門、新入生支援講座、ゼミ活動、カリキュラム、カリキュラムマップについて見直す機会を作る。

(10) 学生FDについて

教員懇談会等への参加を含め、学生とともに羽陽短大の教育を作りあげていく意識を浸透させる。
学外FDワークショップなどに参加できた学生がいれば、他学生に経験を伝えられる場を設けたい。

OFD・SDの基本目標

FD・SDは学生の学びの質向上を目的とし、以下の基本目標を達成するために教職協働で取り組む。

「学生の学ぶ意欲を駆り立てるような働きかけを行う」

「学生が自らの行動について振り返り、自ら成長できるように働きかける」

「学習に適した授業環境づくりに努める」

OFD・SD月間目標と定例FD・SD懇談会（原則、教授会開催日の12時15分～）進行分担

月間目標や懇談会テーマについて、自らの教育活動や職務を振り返り、それぞれの教職員が対等な立場で意見交換を行う。また学生の現状、学習状況などについて、情報を交換できる機会にする。

（各グループにおける話し合いの結果発表は12時45～50分を目処に始める。）

4月 目 標：「各教員の年間FD教育目標を設定し、公表する」

5月 目 標：「遠隔授業の習熟に努めよう」

6月 目 標：「学生の声をよく聴き、不安を和らげることに努める」

テーマ：「今後の授業の進め方について」6/25（木）（学友会参加）司会：柏倉 記録：白崎

7月 目 標：「学生が適切な身なりの認識をもつことができるような働きかけを行う」

テーマ：「実習前の指導について」（学友会参加）7/30（木） 司会：松田知 記録：大関

9月 目 標：「年間目標の中間評価と修正を行い、課題を明らかにしよう」

テーマ：「研究倫理について」9/24（木） 司会：太田 記録：宮地

10月 目 標：「学生とのコミュニケーションで分別ある使い分けができるような支援を行う」

11月 目 標：「学習環境を整えるために何ができるかを考えよう」

テーマ：「実習報告会を充実させる方法について」11/26（木）（専攻科参加）

司会：荒木 記録：松田水

12月 目 標：「ゼミの活動を振り返ろう」

テーマ：「ゼミ、卒業研究で育てる能力について」12/17（木）司会：高橋寛 記録：城山

1月 目 標：「2年間、あるいは1年間の学生の成果を見つけて、褒めよう」

2月 目 標：「今年度の自らの教育活動を振り返り、課題を見つける」

「来年度に向けた明確な教育活動の展望を立てる」

テーマ：「FD・SD基本目標の反省」2/26（木）

司会：花田 記録：高桑

- ※ 弁当注文は懇談会の記録担当が行う。前回の懇談会終了後から、集約も含めて早目に行ってください。弁当代は注文された方からの実費徴収です。
- ※ 欠席される場合は早めに記録担当へご連絡ください。
- ※ FD 懇談会に参加できず、司会、記録が担当できない場合は、他の月と交換してください。

令和2年度第1回FDSD研修会 記録

開催日時 令和2年4月21日（火） 10:30～12:00

場 所 学生ホール

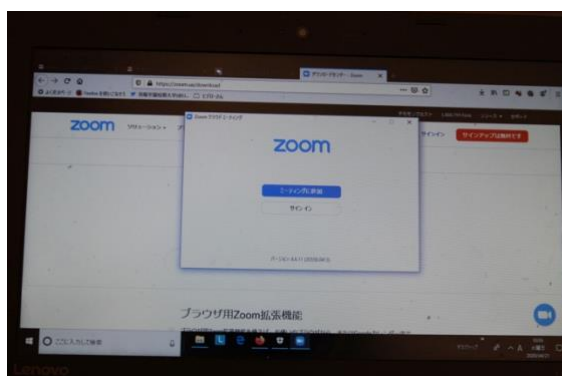
出席者 渡邊、荒木、松田知、柏倉、高橋寛、高桑、小林、松田水、花田、大関、宮地、
伊藤、白崎、小田、城山、太田（記録）
今野、原田、鈴木、浦山、高橋、石井、片平、芳賀、諸橋、本間

5月11日から実施予定のZoomによる遠隔授業についてのFDSD研修会を開催した。なお、この研修会は、教員においては教員の資質の向上を図るための授業改善に向けた組織的取組であるためFD研修会としての開催、職員においては教育研究活動等を適切かつ効果的に運営するために必要な知識及び技能を習得する組織的取組であるためSD研修会としての開催となった。

研修会の講師である「情報処理演習」担当の松田知明教授の説明を受けた後、Googleアカウントの作成、ログイン、Gmailの送受信、Zoomのダウンロード、インストール、立ち上げを実際に各自の機器で体験しながら学んだ。

一連の操作について教職員同士で情報交換したり、質疑応答したりしながら参加者全員が基礎的な操作を試行した。

Zoomの立ち上げまでの操作を行えるようになった後、実際に学長室、担当講師の研究室、学生ホールの3か所を結んだZoomミーティングの様子を参観し、概要を把握した。



令和2年度第2回FDSD研修会 記録

開催日時 令和2年4月21日(火) 13:00~14:30

場 所 図書館 学生ホール

出席者 渡邊、荒木、松田知、柏倉、高橋寛、高桑、小林、松田水、花田、大関、宮地、
伊藤、白崎、小田、城山、太田(記録)
今野、原田、鈴木、浦山、高橋、石井、片平、芳賀、諸橋、本間

5月11日から実施予定のZoomによる遠隔授業についての第2回FDSD研修会を開催した。なお、この研修会は、教員においては教員の資質の向上を図るための授業改善に向けた組織的取組であるためFD研修会としての開催、職員においては教育研究活動等を適切かつ効果的に運営するために必要な知識及び技能を習得する組織的取組であるためSD研修会としての開催となった。

第1回研修会でZoomの概要と立ち上げまでの基礎的な操作を理解したことを踏まえ、小グループに分かれてミーティングの参加方法を学び、実際にミーティングに参加した。

使用しているスピーカーと音、マイクと音声入力を確認し、用途に応じた使用方法や不具合が生じた際の対処方法等についても学んだ。

ホストとしてミーティングを開設する方法、参加者を招待する方法等についても学び、小グループのメンバーで役割を交代しながら、ミーティング開設や開設後の操作を練習した。

遠隔授業をイメージし、実施のためのノウハウの習得に向けて実践演習を繰り返し行った。

令和2年度第3回FDSD研修会 記録

開催日時 令和2年4月22日（水） 10:00～11:30

場 所 会議室

出席者 渡邊、荒木、松田知、柏倉、高橋寛、高桑、小林、松田水、花田、大関、宮地、
伊藤、白崎、小田、城山、太田（記録）
今野、原田、鈴木、浦山、高橋、石井、片平、芳賀、諸橋、本間

5月11日から実施予定のZoomによる遠隔授業についての第3回FDSD研修会を開催した。なお、この研修会は、教員においては教員の資質の向上を図るための授業改善に向けた組織的取組であるためFD研修会としての開催、職員においては教育研究活動等を適切かつ効果的に運営するために必要な知識及び技能を習得する組織的取組であるためSD研修会としての開催となった。

第2回FDSD研修会までの研修内容により、Zoomの基礎的な操作、ミーティングへの参加、開設等がある程度可能となったことから、より具体的に遠隔授業をイメージしながら、研修会の講師である松田知明教授の説明、実演を通して遠隔授業に関連したZoomの使用方法を学んだ。遠隔授業における教材の提示の仕方のひとつとしてパワーポイントの画像を共有すること、出席の取り方としてチャットを利用できること、使用する機器によって画面やスピーカー、マイクの操作が異なること等、遠隔授業におけるより具体的な操作方法や留意点について理解を深めた。

実際に遠隔授業を90分間連続して実施する場合には、授業を受ける学生及び実施する教員双方に対面授業とは異なる疲労が生じることが予想され、適宜休憩を入れたり自学の時間を設けたりするなどの、遠隔授業ならではの工夫が必要であることを確認した。



令和2年度第4回FDSD研修会 記録

開催日時 令和2年5月14日(木) 15:50~16:50

出席者 渡邊、荒木、松田知、柏倉、高橋寛、高桑、小林、松田水、花田、大関、宮地、伊藤、白崎、小田、城山、太田（記録）
今野、原田、鈴木、浦山、高橋、石井、片平、芳賀、諸橋、本間

5月11日から実施されたZoomによる遠隔授業について、現状を確認するとともにその確認を踏まえた今後の改善点について検討した。なお、この研修会は、教員においては教員の資質の向上を図るための授業改善に向けた組織的取組であるためFD研修会としての開催、職員においては教育研究活動等を適切かつ効果的に運営するために必要な知識及び技能を習得する組織的取組であるためSD研修会としての開催となった。

遠隔授業についての検討内容

- ・通信環境に不安や不備がある場合には、本学において遠隔授業を受けられることを学生に周知したが、希望者はいなかった。よって、全員が自宅等で遠隔授業を受けている。Zoomのミーティングに学生が入る過程は概ね順調であった。学生からも、特に不満や不安の声は届いていないが、これまでに1名の学生が、一時入れないことがあった。これは、パスワードの入力に誤りがあったためと思われる。何度か間違ったパスワードを入力すると、ミーティングへの参加を拒否されるが、一定時間を置くと可能になるようだ。その点を教職員が共有し、今後同様なことが生じた場合に慌てないように備えておくようにしたい。
- ・100名程度の大人数による遠隔授業では通信遅延が生じた。カメラをオフに、マイクをミュートにすることで、状況は改善される。状況によって、カメラとマイクの使用のオンとオフを使い分けることも求められる。
- ・出席の取り方は、チャットでとる方法もある。教員によっては、出席の時だけカメラをオンにし、学生の顔を確かめている。上記のことから、出席確認の後は、カメラをオフにすることでスムーズに授業を実施できる。顔が画面に出ることで、学生が安心する面もあるようだ。各教員がそれぞれの状況に応じて使い分けを考えていくことが求められる。
- ・画面の共有による授業中のパワーポイントの使用はスムーズであった。
- ・授業の振り返り等には、Googleフォームを活用している教員もいる。学生のフォーム送信状況に問題はなく、記述内容もしっかりしていることから、遠隔授業だけでなく面接授業における活用にも可能性があるように思われる。
- ・面接授業開始後に、心身面の何らかの事情により、面接授業ではなく遠隔授業を希望する学生がいる場合には、Zoomを使用して授業を配信することも、今後要検討事項となるかもしれない。
- ・現在のところ特に支障なく遠隔授業を実施できているが、継続していく中で、新たな活用方法、反省点、改善点等が明らかになると思われる。ICTを活用した授業実施に関して、学生に対する授業の質保証のために、今後も必要に応じて検討を重ねていく必要がある。

令和2年度FD授業検討会 記録

開催日時 令和3年1月28日(木) 16:10~16:35
場所 会議室
出席者 渡邊、荒木、松田知、柏倉、高橋寛、高桑、小林、花田、
大関、宮地(司会)、伊藤、白崎、小田、城山、太田(記録)
欠席者 松田水

公開授業(令和2年12月7日~12月11日)を実施及び参観した感想、参観後に各教員が提出したレポート(資料として事前配付)を基に、授業改善について検討した。新型コロナウイルス感染防止の観点から、今回はグループに分かれて検討することはせず、出席者が自由に発言する形式で授業改善について検討した。

挙げられた内容は、以下のとおりである。

- ・自分の担当教科においては、定性的評価をしたり授業内容についての学生の反応を次の時間にフィードバックしたりしているつもりである。学生が授業内容において理解したことをアウトプットできるような妥当な評価、信頼できるような評価について、他の教員がどのように実施しているのか伺いたい。
- ・3人で担当している教科で、学生が教育実習の映像を視聴してその内容を分析するという授業を実施している。学生に気づいたことを書かせ、次の時間に教員がコメントしながらそれらを紹介している。学生の様子を見てみると、他の学生の意見をまとめて紹介するだけでも、関心を示している。学生が討論するような形式を取り入れた方が良いと思うが、学生に話すことを求めると、なかなか盛り上がりがない。書かせるとさまざまな気づきが出されるため、教員側も、学生の理解の範囲や度合いを把握できる場合がある。
- ・授業の振り返りのシートを学生に書かせて、それを基に学生とのやり取りを実施している。
- ・教材用のパワーポイントを作成する際に、情報量が多くなりすぎるのではないかと思うが、他の教員はどうしているか。
- ・パワーポイントにすべて情報を入れ込むと多くなりすぎるため、示す情報は絞って32ポイントの大きな文字で示している。補足したい内容は資料として配り、その資料を切ってノートに貼らせている。ただ、その作業に追われ、学生が資料の切り貼りに終始して授業が進んでしまっているということも現実である。資料やノートを丁寧に扱うということも伝えたいという思いはある。学生は、言われれば素直にやってくれているが、他の授業で応用はしていないと思うため、課題もあると感じている。
- ・視覚的な教材に頼らず記録をとるということは、聞きながら記録をするということであり、そのような経験は、例えば実習におけるメモをとりながらの学修につながるのかなとは思っている。一方で、そろそろパワーポイントを使用した授業を組み立てていった方が良いのかなとも考えている。
- ・板書しながら話をして授業を進めていくことは難しい。パワーポイントを使用すると、トピック等が表示された状態になるため、落ち着いて話をするという利点があるように思う。

- ・授業で使用するパワーポイントでは、なるべくごちゃごちゃした画面にならないように心掛けているが、もう少しシンプルなものにしていけたら良いと思っている。パワーポイントは画像と文字情報を載せられるのが長所であり、教材や道具を具体的に見せることができる点が良い。ただ、教室の環境によっては画面が見づらくなることもあるため、黒背景の画面にするなどの環境構成にも配慮する必要があると思う。



令和2年度FD懇談会 記録

テーマ「授業改善アンケート集計結果から授業改善を考える。」

開催日時 令和3年1月28日(木) 16:35～17:00

場所 会議室

出席者 渡邊、荒木、松田知、柏倉(司会)、高橋、高桑、小林、
花田、大関、宮地、伊藤、白崎、小田、城山、太田(記録)

欠席者 松田水

学生を対象とした授業改善アンケート集計結果(令和元年度後期・令和2年度前期)を基に、授業改善及び授業改善に活用できる評価方法について検討した。新型コロナウイルス感染防止の観点から、今回はグループに分かれて検討することはせず、出席者が自由に発言する形式で検討を実施した。

挙げられた内容は、以下のとおりである。

- ・授業評価項目のうち、コミュニケーション項目平均と総合項目平均との値に正の相関があるような印象を受ける。本学の学生は講義科目より演習科目の方が高評価をつけるのかもしれないと思っていたが、学生が受講しやすかったり理解しやすかったりする授業にしていくためには、講義か演習かという授業形態の違いよりも、教員が学生とコミュニケーションをとっているか否かということの方が、強く影響しているように感じる。講義科目は演習科目と比較すると一方向的な授業になりがちだが、どのような手段を講じることが学生とのコミュニケーションを可能にしていくのかということ念頭に置いて授業構成を考慮することが必要だと思う。
- ・科目による授業外学修時間の長さの違いがあるが、自宅で課題に取り組むような科目では、当然自宅外学修時間が長くなる。
- ・器楽の授業では、1週間当たりの自宅外学修時間平均が3時間以上だと回答した学生が約15パーセントとなっている。頑張っているなと思う反面負担になってはいないかとも思う。時間をかけずに技術を修得することが理想だと思っているが、ピアノの演奏は、練習すればするほどうまくなるものである。楽しく3時間以上練習できれば良いが、苦しみながらの3時間以上の練習では辛いだろうと思う。
- ・専攻科では、自宅外学修時間の長さの前期と後期の違いが極端すぎる。1月に介護福祉士の国家試験があるため、その影響があるものと考えている。
- ・これまで使用してきた授業改善アンケートには、本学には必要のない項目が含まれているなどのことから、アンケートの内容や手法を改善する必要がある。例えば、すべての教科の評定値が5点満点中4点以上になるアンケートをやっても意味がない。また、同じ教科でも担当教員が異なる授業の評価を比較できるようになるといったことも必要ではないか。問題点はどこにあるのかということが分かることが、授業改善につながるのだと考える。
- ・学生の学修ポートフォリオの記録を入力していた際に、成績が優秀な学生の方が、自己評価の点数が低めである印象を受けた。また、学生は、実習を経験して他者からの評価を受けることで自分に厳しい目を持つようになることもある。例えば、学修ポートフォリオの内容や科目の成績と照らし合わせ

て関連付けられる授業評価になると良いのかもしれないと思う。

- 担当する授業でグーグルフォームを使用して授業に関する学生の自由記述内容を読むと、参考になることも多いが、数値化の難しさを感じる。アンケートのフォーマットを見直すという方向で検討はしているが、どのようなスケールを作成していけば良いのかということが今後の課題かと思う。



山形県私立短期大学協会主催(山形県未来創造プラットフォーム共催事業)

合同研修会 「コロナ禍に生きるということ」

報告：城山萌々

出席者： 渡邊、荒木、松田知、柏倉、高橋寛、高桑、太田、小林、松田水、花田、大関、宮地、伊藤、白崎、小田、城山、今野、原田、浦山、本間、鈴木、芳賀、石井、片平、高橋、諸橋

1. 日時 / 会場 / 対象

令和3年3月19日(木) 13:00~13:45 / 本学会議室 /
本学教職員 / 東北文教大学教職員 (オンライン参加)

2. 講師

山形県公認心理師・臨床心理士協会

会長 伊藤洋子 氏

(山形大学地域教育文化学部教職研究総合センター所属)

3. 研修会 講演内容

1) はじめに

- ・コロナ禍の中で今年は学生たちが苦しい思いを抱えて過ごしていた
- ・山形大学の状況としては、対面授業が実施されたのは短い期間であり後期も遠隔授業が続いた
- ・学生カウンセリングでも夏休み明けに相談が殺到した

内容：大学生らしい生活ができない、大学に入った意義が感じられない、もう辞めたい、死にたい

→例年と比較して今年度は多かった 小学生から 20代まで幅広い世代で同様の状況が見られた

- ・発達障害のある卒業生から、就活に苦労してやっと内定をもらったところで働き出したもののコロナ不況を受けて雇止めになってしまった、という話もあった

2) コロナ禍のストレスとは

- ・情報が錯綜している中でどう受け止めるのがいいか
→情報の出所を確認する 情報を見極める力が重要
- ・この状況をどのように受け止めるかは人それぞれであり、平気な人もいれば鬱になる人もおり、

これらは「認知」に依っている

例：一つの仕事に対して「やっと半分終わった」「まだ半分もある」

どう受け止めるかで心の持ちようが異なる

→認知を健康に保つことが心の健康につながる

・緊急支援の仕事について

山形県内の学校全体の心の健康を保つ仕事

不審者との遭遇や自殺などにショックを受けた学生や教職員のためのカウンセラー

→今年度は出動回数が増加している

→県内でも学生の自殺者が例年と比べて倍の人数になっている

・眠れない、強い悲しみを感じるなどの症状に対して、非常時の当たり前の反応であることを伝える。時間とともに落ち着いてくるということを伝えることで落ち着く

・コロナ禍の不安は先が見えず、あいまいな喪失感やこの状況がいつまで続くかわからない予測不能さ、自粛疲れなどがある

・不安の大きな原因は「社会的なつながりの喪失」

自分の居場所を失くしてしまったという一番の喪失感である

3) コロナ禍においてこころの臨床現場で感じていたこと

・「死にたい」と言った子たちの状況を聞くと、友だちと過ごす時間やアルバイトなど「場」の喪失があった

・全国的に自殺者は増加の傾向がある

・テレワークが生む家庭環境の変化には子どもも巻き込まれる

例：厳しいしつけをする父親が在宅勤務になり日中も家にいることで子どもの逃げ場がなくなる

・「なんだか分からないけど死にたい」という訴えが今年は次々と発生した

・このような訴えが多い中、相談で会っている時間以外はどう過ごしているか、大丈夫だろうか、対応するカウンセラー側もパニックになる

・「なんだか分からないけど」という状態は『解離』と似ている

居場所の喪失により、自分を見つめる時間は増えるが精神的な支えはなくなり、現実と対峙ができなくなる

・カウンセリングをしていく中で死にたい気持ちの背景を聞いてひも解くと落ち着く

・元々の原因や問題への対峙ができると好転するケースが多かった

4) 解離について解説 ～脳の三層構造について～

・脳の三層構造

第一層 ▶ 脳幹(生命の中核：食欲、呼吸、睡眠、血圧、体温など身体の健康保持)

第二層 ▶ 大脳辺縁系(感情の中核：恐怖、痛み、不安など命を守るために危機を教える)

第三層 ▶ 大脳新皮質(理性の中核：思考、理性を司る生まれた後に成熟する脳)

・感情を司る第二層と思考や理性など評価を担う第三層が分断されてしまうのが解離

5) 感情脳と評価脳が解離していく過程

- ・感情を言葉などで理性的に捉えられなくなる
- ・安心や心地よさも感じるができなくなる
 - いやな気持ちを感情として捉えられずにいつまでたっても解消されない状態
 - 言葉で説明することや理解することができず「なんだか分からない」となる

6) カウンセリングの過程

- ・カウンセリングは、ホールディング(共感的理解)→分析(明確化)→勇気づけ(支持)、というプロセスで行う
- ・相談者は、混乱/抑うつ/解離などの状態→自己を見つめる/自己受容→自己一致/自信が持てる/主体性を持って生きていく、というように段階を経て回復する
- ・カウンセラーが共感的な理解を示したり言葉を投げかけたりすると自己を見つめなおす気づきにつながる
- ・コロナ下でも同様のプロセスが効果的だと考えられる
- ・大事な人と共感しあうことが重要
 - 感情の部分で感じているものを一緒に感じてあげることによって不安を抱え上げることができ、健全な判断や自己コントロールができるようになる

7) 不安・恐怖は安全装置

- ・感染を怖がる気持ちがあるからこそ予防の行動がとれる
- ・大事なものはその時点での最新のエビデンスに基づいた情報を得て自分で判断すること(自己効力感があがる)
- ・情報は操作されていることが前提
- ・人は自分の考えに沿った情報ばかり集めてしまう(確証バイアス)
- ・コロナ禍を自分の人生にとって大切なものを見直す機会と捉える
 - 死を意識すると生きることを考えるようになる
 - 働き方の見直し、自分にとって「不要不急なもの」の意味を考える

8) ゼロリスクを求めない

- ・リスクを考えておくことが心理学的に見ても大事である
- ・心の健康のためには 100%で考えないことが重要
- ・ウイルスと人との共存ということを考え、人と動物との距離や人と人との距離について問い直す
- ・発生を隠そうとしないで知らせていくことも重要

9) 現実と対峙する

- ・With コロナという現実を受け入れてその中で生きていく
- ・現実を受け入れることで今やることが見えてくる
- ・「わかっていること」に目を向ける

- 未来のことは誰にも分からない
- 悩んでも考えても答えは“現実(いま)”にはない
- ・自己選択できる範囲で自由を享受しよう
- ・レジリエンス(しなやかに適応して生き延びる力)を身につけよう

10) エンパワーメント

- ・自分に向けてできること
自分で生きのびる力を自分で与える/セルフケアをする/
ポジティブ思考を意識する/リラクゼーション(筋弛緩法)
- ・他人にむけてできること
思いやりと共感 →ほんの少しの思いやりで人は支えられる
- ・クラスターが発生した保育園の先生へ園児からの手紙「ごめんねじゃないからね」
→申し訳なさを抱える大人に向けた、園児からの思いやり

11) マインドフルネス～心を整える

- ・マインドフルネスは心を整える方法
- ・ストレスの軽減、集中力や記憶力を高める
- ・感情のコントロール力や客観的・俯瞰的に物事を見る力を上げる
- ・「いま、ここで」に注目する →自分の体や心の一点に集中する

12) 質疑応答

質問者) 濃厚接触者として PCR 検査を経験したが、その時はとても不安だった。同僚と情報共有したことが、今回のお話を聞いて振り返ってみると良かったと思うのだが、どうだろうか
伊藤先生) 心が落ち着いたかどうか重要

相手が理解者であるか、気持ちを受け止めてくれる人かどうか、そういった意味で相談する人を選ぶことも大切

質問者) マインドフルネスの体験が面白かった

「眠れないときに羊を数える方法は効果があるかどうか」という話について、眠りやすい方法など正解はあるのでしょうか

伊藤先生) 眠りに入るために羊を数えるのは、日本語だと効果はなく英語だと効果がある。”sheep”が”sleep”と発音が似ていることと、”sheep”と言うときに息を吐くことで呼吸を整えることができる。

眠りやリラックスには呼吸法が大事になる。

また、リラックスの方法は人それぞれでありハードロックで心が穏やかになる人もいるため、自分に合った方法が良い。

第26回FDネットワーク“つばさ”FD協議会

報告： 柏倉 弘和

1. 期日：令和3年3月2日（火） 15：00～16：30 Zoomによるオンライン開催

2. 本学参加者： 柏倉 弘和、松田 知明

3. プログラム

第1部 協議会（15:00～15:30）

第2部 事例報告（15：30～16：30）

4. 内容報告

（1）第1部 協議会

①FDネットワーク“つばさ”令和2年度事業報告について

○ 週間授業改善リレーエッセイ

令和3年3月1日現在寄稿された27件のエッセイがHPへ掲載された。

○ 5月第25回FD協議会

メールによる持ち回り協議が実施された。

○ 7～8月 授業改善アンケート（前期授業分） 実施校 5校

○ 9月4日（金）FDワークショップ（オンライン）

・ 基調講演（76名参加）

講師：茨城大学全学教育機構准教授 畠田敏行氏

演題：茨城大学の遠隔授業から見えてきた授業の質を高めるいくつかの方法

・ ラウンドテーブル

第1分科会 外国語教育における遠隔授業の実践例をめぐって（32名参加）

第2分科会 実験・実習系の事例紹介（33名参加）

「スポーツ実技からスポーツセミナーへ」

「オンライン学生実験の実際と課題」

「USBメモリーを使ったデータ解析実習」

・ 第3分科会一般講義（大人数受講）（18名参加）

○11～1月 学習成果等アンケート 実施校4校

○11～2月 授業改善アンケート（後期授業分） 実施校 5校

②FDネットワーク“つばさ”令和3年度事業計画について

月	事業内容	開催場所
4	「週刊授業改善リレーエッセイ」連載開始	
5	第27回FDネットワーク“つばさ”FD協議会 前期 授業改善アンケート実施	山形大学 各加盟校
7	学生主体型授業「合同成果発表コンテスト」	山形大学
9	FDワークショップ 学生FD会議	山形大学
12	学習成果等アンケート実施（12月～1月）	各加盟校
1	後期 授業改善アンケート実施	各加盟校
2	学生主体型授業「合同成果発表コンテスト」	山形大学
3	研究年報2021発行	

（2）第2部 事例報告

「コロナ禍における山形大学のキャリア・就職支援」

山形大学学術研究院（学士課程基盤教育機構主担当）

准教授 松坂 暢浩

准教授 山本 美奈子

- ①コロナ禍におけるキャリア・就職支援の見直し
- ②本学におけるキャリア・就職支援の具体的な内容
- ③今後のキャリア・就職支援の在り方について

令和2年度 教員個人目標に対する自己評価

役 職	学長・教授	教員名	<u>渡邊 洋一</u>
－授業としての取り組み目標－			
資格免許の取得に直結しないようにみえる授業も、社会に出てから専門職業人として働く上で重要な意義のあることを理解してもらうことが目標である。			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
毎回の授業で、授業内容の理解度と授業をきっかけとして気がついた自身の課題などの記述を求めている。特に保育と直接に結びつかないように見える話題の際に、疑問や関心の幅を広げる方に誘導できなかった学生もいた点が反省される		保育や福祉は、誰にでも、日々の生活全般で関わってくることを、より身近な例を導入して、幅広い話題について疑問をもつような問いかけをしたい。それによって、科学的に考える癖を身につけるような教育を実践しようと考えている。	
－学生とのかかわりとしての目標－			
できるだけ学生の名前と顔を覚え、丁寧な指導を心がけたい。			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
新型コロナウイルス感染の危険を避けるために、密接な距離をとったり、討論に時間をかけることができず、一方的な講義が多くなりがちだった。担当が職業訓練生となる卒論ゼミは、個人の時間を尊重しつつ、時間通りに卒論を仕上げることができた。ゼミ以外の学生諸君ともっと交流したかった。		マスク越しの会話も慣れてきたので、換気や時間配分を工夫して、実験やディスカッションの時間を多くし、一人ひとり学生の意見を聞き取れるようにしたい。	

役 職	専攻科主任・教授	教員名	<u>荒木 隆俊</u>
－授業としての取り組み目標－			
<ul style="list-style-type: none"> ・基本は、マニュアル化した専門職者を育てるということではなく、将来に向けて今何が必要か、どんな視点が介護支援に必要なのかといった点に触れ、特に「命・生きる」ということについて追求できるような授業を心がけ、介護、幼児教育双方に共通する視点を身につけられるような授業を作る。 ・介護福祉士国家試験全員合格を目標に、学修意欲を高める努力をする。 			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
授業については目標に沿った授業を心がけ実施したが、コロナウイルスの影響もあり、予定通りのスピ		授業の柱は、今年度と同様に進めていくつもりであるが、個々の理解の程度については、適宜、	

<p>一ドで授業を進められなかった科目もある。もう少し、個々の理解度について配慮しながら授業を進めていくための工夫と努力をすべきであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士国家試験に向けての準備は、早い段階から意識づけを行うようにしたが、コロナウイルスの影響が大きく、個々の進捗状況が見えず個々の学習スタイルに任せきりの部分が多かった。日頃より、いかに学修意欲を高めるかが課題である。 	<p>確認をしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士国家試験対策としては、学習意欲を早い段階から持つよう進めていく。学生の様子や意見を取り入れながら見守るようにしていく。
<p>－学生とのかかわりとしての目標－</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・個々の性格を具体的に把握し、個々に適切に助言ができるよう、対話を大切に関わる努力をしていく。 ・適宜、受験勉強の進捗状況を確認するために、個人面談を実施し、年間を通じて授業時間以外の学習ができる意識を持たせていく。 	
<p>今年度の反省</p>	<p>次年度に向けた具体的な打開策</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・学内での生活はコロナウイルスの影響でかなり制限されたが、各学生にはそのような状況でも主に授業を中心として関わる機会を多く得よう努めた。適宜、学生の個性や努力を認め励ませたと思う。 ・学生も制限された環境の中で、頑張ってくれたと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスの影響が今後どの程度になるか不透明なところがあるが、学生が相談したりできるような時間や環境を整えながら、丁寧な関わりを心掛ける。

<p>役 職</p>	<p>図書館 長・教授</p>	<p>教員名</p>	<p><u>柏倉 弘和</u></p>
<p>－授業としての取り組み目標－</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学ぼうとする気持ちが基本であり、最も大切であることに気づくような授業を心がけたい。 ・保育とはどうすることなのか、どんなことが大切なのかについて考える内容を十分に取り入れたい。 ・保育実践において、幼児が上手にできるとか、間違わずにできる、しっかりしているというようなことは、あまり重要ではないことに気づいてほしい。 			
<p>今年度の反省</p>		<p>次年度に向けた具体的な打開策</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学ぼうとする気持ちは感じられたが、もっと意欲を高めることができればよかった。 ・保育について考えさせることを心がけたが、まだ十分ではない。何が大切であるのかをもう少し整理し、明確にしたい。 ・実践記録を資料にして学生の気づきを引き出そうとしたが、個人差があった。全体の意識をもっと向上させたい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・実践にもっと結びつくような内容を考えていく。 ・実習の経験をもっと活用していきたい。 ・学生の保育についての認識を揺さぶるような発問を考えたい。 	
<p>－学生とのかかわりとしての目標－</p>			

様々な機会や場面において学生の皆さんの声を聞き、思っていることや感じていること、考えていることなどをできるだけ汲み取り、対応したい。

今年度の反省	次年度に向けた具体的な打開策
コロナ禍ということで、学生の皆さんと話す機会や場が減ってしまい、思うような関わりができなかった。	授業の前後の時間を活用したり、昼休み等に教室や図書館に行ったりすることで、関わるきっかけにしたい。

役 職	教授	教員名	高橋 寛
－授業としての取り組み目標－			
<p>例年のことではあるが、教員の言葉、歌声、ピアノの演奏などのアナログな「耳からの情報」に注意を向けさせ、「聴き取る、書き取る、記憶に残す」という作業を必要とするような教材を更に改案し、そのような授業の進め方を充実させる。これを指向することは、担当教科以外の学生指導という側面にも有効であるはずだ。本学の卒業生たちの就職先から『ピアノをもっと弾けるようになってきて欲しい』との意見が多く寄せられている昨今、「歌うだけ」「ピアノを弾くだけ」のスキルでは、幼児教育の現場では適応できない。スキル・アップすることの喜びを実感できる授業の実施に努める。</p>			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
<p>新型コロナウイルス拡散の影響で、歌うことや、音声などによるアナログなコミュニケーションが制限される中、できる限りの手段を模索しながらの授業内容となった。やはり、幼児教育の現場には必須と思われる相互確認・理解のためには、従来の授業内容に戻したいと思う。</p>		<p>新型コロナウイルスの収束を願い、早く従来のような授業内容に戻したい。社会情勢に合わせて徐々に「楽しみながらの授業」としての幼児教育分野での音楽を学修してもらえようようにしたい。</p>	
－学生とのかかわりとしての目標－			
<p>最近の学生に多く見られる「自分なりに社会のルールを改変して生き抜こうとする」姿にはけっして同調しない。学生たちにとっての「もっとも身近な社会人」としての立場をこれまで同様に重視し、適度な礼節は確保しつつ「高圧的な教師でもなく、我関せずの大人でもない」ことを基本のスタンスとしたい。</p> <p>また、舞台に立ち続けるプロの現役（歌手・役者・演出家・合唱指揮者・・・）として、日常の体調管理や、あるべき対外との交渉術などを、機会あるたびに学生に公開し、または企画への参加・共演を促し、よき見本となるように努める。</p> <p>フットワークを軽く、思考を柔軟に、精神は実直に、大人としても「人生を前進する」姿勢を示していきたい。</p>			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
<p>キャンパスライフの楽しいことを奪って、我慢や自己統制ばかりを学生に強いている心苦しさを、この一年感じていた。もっと、円滑なコミュニケーションを図りたいと思った。</p>		<p>粘り強く、丁寧なコミュニケーションを心掛け、学生を励ましながら、この大変な時代を乗り越えていこうと思う。</p>	

役 職	教授	教員名	<u>高桑 秀郎</u>
－授業としての取り組み目標－			
<ul style="list-style-type: none"> 適切な授業環境を維持できるよう働きかける。 論述問題の要点等を伝えながら、それを学生が再出力できるような働きかけを工夫していく。 点呼時の挨拶・返事の重要性を説く。 			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
<ul style="list-style-type: none"> 授業環境の維持については、学生の私語等については、それなりにコントロールできたと思う。しかし、授業アンケートなどには、それが質問させない有無を言わせない雰囲気というような表現で指摘されていた。 論述問題について、昨年度より丁寧に行い、定期試験前に事前添削などの指導を行った学生については書けるものが多かった。添削を受けるものを増やすようにしたい。 授業でどこを話しているか分からないとの授業アンケートがあったので、黒板の板書を極力パワーポイントに切り替えて分かりやすい授業内容になるよう試みる。 点呼時の挨拶・返事については、新型コロナウイルスの流行もあり、後期に点呼時に返事をしない学生が増えたように感じる。 		<ul style="list-style-type: none"> 教室環境については、新型コロナウイルスの流行のせいもあって、私語は見られなくなってきたので、和やかな雰囲気を進めたい。 学生が理解しやすいような視覚と連動させた教材作成を心掛ける。 板書のパワーポイント化。 パワーポイント作成時は情報が多くなり過ぎないように配慮する。 新型コロナウイルス流行の下にあっても、相手に聞こえる程度の反応をうながす。 	
－学生とのかかわりとしての目標－			
<ul style="list-style-type: none"> 学生が相談に来やすいよう、研究室の整理を心掛ける 学生指導については、自分のみの独善的な指導にならないよう、他の教職員と情報を共有して進めていく。 学生が自立し、主体的に考え、行動できるような働きかけを行う。 			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
<ul style="list-style-type: none"> どうしても余裕がなくなってくると、研究室自体にものが溜まって行ってしまった。 他の教員との連絡をとりながら進めたが、学生の反応が芳しくないので、対応については、時代に対応して変化させていきたい。 今後とも継続して模索していく。 		<ul style="list-style-type: none"> 数年間使っていないような資料等の廃棄を進める。 初めから拒絶されるような指導を改めて行くよう心がける。 主体的に考えるために、此方の指導がきつ過ぎると拒絶されるようなので、そこは対応していくように指導を進める。 	
役 職	学生部長・教授	教員名	<u>松田 知明</u>

－授業としての取り組み目標－	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業を通して、コミュニケーションの意義を考える機会を増やすように努め、その効果を確認するように心がけたい ・来年度は新型コロナウイルスによる授業の急な変更も予想されることから、それらに対応できるように心掛けたい。 	
今年度の反省	次年度に向けた具体的な打開策
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響を受けた一年で、急遽実施された年度当初の遠隔授業も、概ね順調に進められた。しかし、当初の授業計画を見直しを行った。遠隔授業で使用した Google フォームを使って、毎授業でレポートを回収でき授業の反省を次回の授業で改善できた。また、学生とのテキストでのコミュニケーションをとることができたが、意義の理解までには至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も新型コロナウイルスの影響受けると予想されるため、急な変更に対応できるようにしたい。 ・Google フォームを使ってコミュニケーションを深め、その意義を考える機会を増やし、授業の理解も把握するよう心掛けたい。
－学生とのかかわりとしての目標－	
<ul style="list-style-type: none"> ・仕事の配分と効率化をはかり、学生への支援の時間を確保するように努めたい。 ・来年度は新型コロナウイルスによる学事暦等の急な見直しも予想されることから、状況に合わせた支援をしたい。 	
今年度の反省	次年度に向けた具体的な打開策
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響で、学生とのコミュニケーションに制限があり、学生の思いを十分把握できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスによる制限の中ではあるが、学生とのコミュニケーションの機会を増やし、学生の思いを把握し、適切な支援ができるよう努めたい。

役 職	学科長・教授	教員名	太田 裕子
－授業としての取り組み目標－			
<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の理解と定着、学習内容の保育との繋がり理解促進を目指す。 ・学生の提出物やグループ討議の実施を通して、授業にアクティブラーニングの視点を活かすことで、学生の授業の理解や取り組みの適切な現状把握、学修意欲の向上に繋げていきたい。 			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
<ul style="list-style-type: none"> ・レポート記述内容などから、学修内容の理解については一定の定着ができたように思う。一方で、保育との繋がり理解を促進することは難しかったと感じている。 ・コロナ禍での授業となり、アクティブ・ラーニング 		<ul style="list-style-type: none"> ・学修内容の理解に関しては、核となる部分を繰り返し学ぶ機会を設ける。保育との関連性の理解促進のためには、具体的かつ学生が親近感を持てる事例、教材を可能な限り視覚的に提示することに努めたい。 	

<p>実施が非常に限られた。代替策を模索しながらの授業実施となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業態度、提出物の内容から、学生の現状を把握し授業のスピードや内容を微調整しながら授業を進めていくことはできたように思う。提出物に対する個別コメント記述等、授業形態の制限がある中でも出来ることを実施する努力を更に重ねる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 可能な範囲でアクティブ・ラーニングの要素を意識的に盛り込んでいきたい。状況的に困難な場合でも、他者の意見・感想に触れたりそれらに対する自分の意見・感想を表現したりする機会を創出したい。 学生の提出物へのコメント記述等の個別対応は必要なものとの認識が依然として強い。年間を通しての実施は難しい面もあるが極力実現し、応答的な関わりのある授業にしたい。
<p>－学生とのかかわりとしての目標－</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 学生が人と接することの楽しさや安心感を持てるよう、業務の効率化を図り極力時間を確保して、各学生の個性や現状に応じた関わりを重視する。それぞれの希望に沿った進路決定実現に向けて、丁寧に対応していきたい。 	
<p>今年度の反省</p>	<p>次年度に向けた具体的な打開策</p>
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスへの対応に時間と労力を要し、学生とかかわる時間が減少した。また、マスク着用でのかかわりとなったため、例年より学生の同定に時間を要した。不測の事態で不安を抱える学生に対して、限られた条件の中でその思いへの傾聴や進路実現の支援を実施したと思う。本学の教育の根幹である学生とのかかわりを丁寧かつ愚直に持続することの必要性を改めて感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生生活、学修、進路選択等に関する、学生それぞれの疑問や不安を解消・軽減できるよう、コロナ禍はじめ状況の変化があっても、その時々で可能なあらゆる手法を取り入れ、できる限り細やかなかかわりを心がけていきたい。学生の個性、事情を念頭に置き、それらを考慮しながら継続的にかかわっていきたい。

<p>役 職</p>	<p>准教授</p>	<p>教員名</p>	<p><u>小林 浩子</u></p>
<p>－授業としての取り組み目標－</p>			
<p>学生達に地道に辞書を使用して和訳させる、英文法等をわかりやすく教え直すことを引き続き行っていきたい。</p>			
<p>今年度の反省</p>		<p>次年度に向けた具体的な打開策</p>	
<p>コロナ禍でのマスク着用・ソーシャルディスタンスを守っての英語コミュニケーション授業ということで、発音やリスニングにかなり苦労を要した。</p> <p>英和辞書を使用しての学習は、一部英語が不得手な学生をのぞき、概ねスムーズにできた。</p>			
<p>－学生とのかかわりとしての目標－</p>			
<p>学生達にできるだけ個別に声がけをし、時間をかけて問いかけたり質問に答えることを続けていきたい。</p>			
<p>今年度の反省</p>		<p>次年度に向けた具体的な打開策</p>	

<p>個別の声がけや質問でソーシャルディスタンス制限があり、例年のような授業ができないもどかしさがあった。語学学習はまず発声・発音ありきなため、マスク着用により発声や英語発音に要する口の動きを見せることが封じられ、おもうような授業ができなかった。</p>	
---	--

役 職	准教授	教員名	<u>松田 水月</u>
－授業としての取り組み目標－			
<p>介護福祉士国家試験に向け、学生個人にあった、学習方法を早期に提案し、興味関心をもち自ら学びたいと思う授業に心がける。また、物事の考え方、視点について広い視野で物事を捉えていき判断できる授業づくりを心掛けたい。</p>			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
<p>1年間という短い期間に2・3・4年分の知識や技術を修得し、介護福祉士国家試験を受験し合格することが最大の目的ではある。よって早期に一人ひとりの個性を把握し、個別の細やかな指導等が今回も役に立ったと思われる。しかし今回コロナ禍でそのコミュニケーションの方法にも限界があり探りながらの1年間であった。初めの2か月間はZOOMなどを使ったが学生も戸惑った様子だったが、対面になり何とか少しずつ挽回してきたようには思うが、今後もコロナ禍での学習方法を工夫していく必要がある。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・学生に早期から介護福祉士国家試験の現状を知ってもらうため、試験の情報、受験会場の情報を分析し個人にあった学習方法を提供する。 ・様々な教材を活用し、学生に興味がある学習内容に常に心掛ける。 ・現任教育の一環として、マナー教育等にも細心の注意をはらう。 ・学習内容が、単調ではなくなぜ必要でどういった分野に繋がるか、根拠を明確にし、理解しやすい授業に心がける。 	
－学生とのかわりとしての目標－			
<p>個人との関わりの中で、学生自身の個性を早期に理解し、課題等を共有していく中で、助言できるように心がける。 後悔の無い一年になるよう、対話を大切に学生の理解を深めていく。</p>			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
<p>介護福祉士国家試験の受験のために、どうしても試験対策に集中してしまう点はある。それと同時に、人と関わる仕事について、より深く自分で考えることが必要に思う。人、高齢者と関わりとはどういうことなのか、学習も大切にしたいので、あたりまえだがふと忘れそうになることを、ともに考え、より一層大切にしたい授業を作っていく必</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍にあって、1年で就職活動・国家試験勉強・実習と奮闘する学生の心境を理解し応援していきたい。何らかのコミュニケーションツールを活用し、早期から学生と意思の疎通、共有が図れるようにしていきたい。 	

要性を感じた。	
---------	--

役 職	准教授	教員名	<u>花田 嘉雄</u>
－授業としての取り組み目標－			
<ul style="list-style-type: none"> ・学生個々の良い点や個性的な発想を見つけたら、その場で褒めるように心掛ける。また、色々な表現や価値観を受け入れ、他の作品にも興味を持てるように、鑑賞や発表の方法を工夫する。 ・授業の意義が伝わるよう意識し、話し方を工夫する。 			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の実践では、グループの発表についてのコメントを次に発表するグループの学生（ランダムに指名）に述べてもらう方法でグループ発表を行う予定だったが、コロナ禍のためグループワーク自体を少なくしたり自粛気味に行ったりすることで精一杯で、実現させる余裕がなかった。来年度グループワークを行う際には、前述の方法を実施し、更に深みのある価値観共有の場になるようにしたい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・グループ発表の際は、他グループの発表についてのコメントを次に発表するグループの学生に述べてもらうことにより、他グループの表現や価値観を自身の参考として受け入れやすい環境をつくるようにする。 	
－学生とのかかわりとしての目標－			
<ul style="list-style-type: none"> ・時と場合、人間関係によって言葉を遣い分けるよう声掛けする。また、自分自身の言葉遣いについても、気楽過ぎないように気をつける。 ・傾合いを見ながら、学生が自ら考え、責任を持って行動できるような働きかけをする。 			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はコロナ禍のため、学生が窮屈な生活を強いられていることを考慮して、TPO の意識よりもできるだけ優しい言葉遣いをするよう心掛けた。学生は、不自由な生活の中、よく頑張ったと思う。 ・学生が自ら考え、責任を持って行動できるように働きかけるタイミングは意識しているが、効果的であったかどうかは不明である。 		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍に於いては、学生の頑張りを応援する姿勢を心掛けたい。 ・選択肢が狭まりつつある状況において、少しでも学生自身が責任を持った選択ができるように意識する。 	

役 職	准教授	教員名	<u>大関 嘉成</u>
－授業としての取り組み目標－			
<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット上の情報を吟味する課題を課すことにより、リテラシーを高める。 			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
<p>当初は、レポートにおいて、特定の web サイトを指定し、そこに掲載されている情報（語句や内容、専門用語の説明）の正誤判断やさらに追記すべき事項を、その他の文献や学生自身の考察を踏まえて行</p>		<p>左記の反省に対する打開策からは逸れるが、授業において取り上げている内容や実施している課題に関して、こちら教員側でその意図を説明し、さらに学生にその妥当性を考えさせ、</p>	

<p>わせる想定でいた。しかし、そもそも、その類の課題は自身の担当科目の学生評価の尺度からは乖離しており、また、指定するサイトも教材として自作する必要性を感じた。それを実現するための時間不足や学生の通信環境などの物理的要因により、結果として、インターネットではなく、「学生自身を保育所の実習指導者と想定し、実習生指導を行う」類の課題を保育内容指導法において実施した。情報検索とその理解、評価・熟考というリテラシーを高める課題にはなり得なかったと評価しているが、呈示された情報を正しいと思い込まない姿勢が少しでも芽生えていればと期待する。</p>	<p>意見を求めることで、批判的な視点や学びの主体であるという当事者意識をもたせていきたい。そして、「できない」や「わからない」といった安易に合理化する発言がなされないようにしたい。もちろん、学生の意見を封殺することはなく、思いを自由にアウトプットできるチャンネルは確保し、学生の声を大切にしていきたい。</p>
--	--

－学生とのかかわりとしての目標－

- ・スケジュールを活用したり、将来への見通しを考えさせたりすることで、時間の使い方を意識させる。

今年度の反省	次年度に向けた具体的な打開策
<p>確認がとれている学校行事等の予定や就職活動の見通しなど、学生が自己管理をする上で必要だと考えられる情報や高い関心を示す情報は、自身の授業における課題のフィードバックに関連付けて、早めに伝えるよう努めた。しかし、卒業研究においては、例年同様、期限直前まで指導を要した学生もおったため、以下に予定に基づく自己管理を促すかは、継続課題である。</p>	<p>ややもすると強制になってしまうことが懸念されるが、課題等においては、目安の期限を段階的かつ具体的に提案し、さらにその根拠も併せて説明したい。</p>

役 職	講師	教員名	宮地 康子
<p align="center">－授業としての取り組み目標－</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ・一方向の授業ではなく、学生自身が意欲をもって学習できるような授業内容を工夫する。 ・学生一人ひとりの興味・関心を引き出し、学習することの楽しさや達成感を感じてもらえるようにきめ細やかな指導を心掛ける。 			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
<p>コロナの影響で、5月まで遠隔授業、そこからの対面授業となり介護福祉士の国家試験対策が例年のペースでは追い付かず、後半に課題が集中してしまった。個人によってノート整理による学習方法、問題をたくさん解く方法、アプリ等を使って学習すること等が合っているというように、個人の合ったやり方をさらに早い時期から見つけられるように助言</p>		<p>前期の早い時期から、学生一人ひとりに合った学習方法が定着するように授業等で、先輩達の学習方法の具体例を挙げながら助言、指導していく。</p> <p>学習した内容を記載したノートの提出を促し、苦手な科目や、どのような学習方法が良いか悩んでいる学生を早めに見つけ、助言できるようにし</p>	

<p>や指導する必要があった。</p> <p>現場での経験談を交え、イメージを膨らませることができるよう授業を展開するように心がけたが、例年より授業の余裕がなかったように思う。</p> <p>点数が伸びたことやノートの整理の仕方等に関してノートにコメントを書くようにし、達成感を得られるような配慮はおこなったが、例年より提出が少なかったため、来年度はさらに細やかなやり取りができるようにしたい。</p>	<p>ていく。</p> <p>教科書だけでなく、図や絵があるような資料作成、画像等を提示する等、さらにイメージが膨らみ、根拠がわかりやすい内容の授業を工夫していく。</p>
<p>－学生とのかかわりとしての目標－</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・早い段階から自分自身の学習スタイル（生活面も含め）を確立し意欲をもって生活できるよう、コミュニケーションを図り学生一人ひとりを理解する。 ・伸びている点に関しては意識的に褒め、また伸び悩んでいる時期には一緒に考え、意欲が低下し、諦めることのないよう最後まで関わりを大切にしていく。 	
<p>今年度の反省</p>	<p>次年度に向けた具体的な打開策</p>
<p>コロナ禍で生活自体を変えていく必要があり（アルバイト等）、前期は特に授業も過密のスケジュールであったため、学生のストレスも大きかったと思う。授業中や授業後にゆっくりコミュニケーションをとる機会を意識的に設けても良かったかと思う。最後まで諦めずに声掛けしたが、意欲の向上に結び付いたかは疑問であるため、授業後の評価をしっかりと確認するように心がける必要があった。</p>	<p>来年度もコロナの終息する見込みは不明であり、体調面や精神面での不調が見られたときは早めに相談や助言が行えるように、一人ひとりとのコミュニケーションを意識的に図るようにする。</p>

<p>役 職</p>	<p>講師</p>	<p>教員名</p>	<p><u>伊藤 和雄</u></p>
<p>－授業としての取り組み目標－</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ・保育に加え介護、福祉分野への興味、視野を広げられるものの見方、捉え方ができるように取り組む。 ・不得意科目とする社会の理解、障害の理解の理解不足が一つでも少なく、得点に結びつくよう工夫し、介護福祉士国家試験の全員合格を目指す。 			
<p>今年度の反省</p>		<p>次年度に向けた具体的な打開策</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対応により今まで以上に一方的な授業になってしまった。 ・オンライン授業の不慣れ。 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業において、学生の発言の機会を多くする。 ・パソコン、携帯等の積極的に活用する。 	
<p>－学生とのかかわりとしての目標－</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ・現場での実務経験をいかし社会人として、専門職人として何が大切か、求められているものは何か、スキルアップの重要性を意識し積極的にコミュニケーションを図る。 ・悩みや、精神的負担が軽減できるようよく話を聞く。 			

今年度の反省	次年度に向けた具体的な打開策
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により、様々行事が中止となり学生との活動、話を聞く機会が減り学生との関係が希薄になってしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生支援講座計画の他にクラス担任学生への定期的な個人面談の機会を設ける。 ・相談しやすい雰囲気づくりの一つとして、積極的に挨拶、声かけをする。

役職	講師	教員名	<u>白崎 直季</u>
－授業としての取り組み目標－			
<ul style="list-style-type: none"> ・就職してから応用できるような授業展開をしていく。 ・知識面と技術面のバランスを取る。 			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の前半に遠隔授業を行うことで、いつもとは違う授業内容を扱うことができた。そのことで技術面と知識面におけるバランスを例年よりとることができたように感じるが、理解度を把握することが難しかったと感じる。 ・今取り組んでいる課題がどのような意義があるのかということを理解していけるような働きかけが必要であると感じた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・特に知識面においてはわかりやすくシンプルに伝えていくことを心掛けたい。 ・苦手意識を持たないように配慮をしていくと同時に、学生のモチベーションを上げることで主体的に取り組む雰囲気を作っていきたい。 	
－学生とのかかわりとしての目標－			
<ul style="list-style-type: none"> ・学生が自立し、自信を持って行動していくための支援をしていく。 			
今年度の反省		次年度に向けた具体的な打開策	
<ul style="list-style-type: none"> ・提出物、時間厳守など確認事項をしっかりと認識させることが必要であると感じた。他人任せになってしまうことで依存心が出てしまう傾向にあるように思う。しかし、学生同士が協力する様子も見えたため、バランスをとりながら手を出すことで良い学生生活を送るための雰囲気づくりをしたい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・確認することの習慣づけを引き続きアナウンスしていきたい。 ・自分で考えて導いていくような働きかけを続ける。 	

役職	講師	教員名	<u>小田 幹雄</u>
－授業としての取り組み目標－			
<ul style="list-style-type: none"> ・学生が主体的に考え、活動する場面を多くし、実践的な学びに繋げることが出来るよう展開する。 ・グループ演習活動を充実させ、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力で構成される社会人基礎力の向上に努める。 			

今年度の反省	次年度に向けた具体的な打開策
<p>年度当初は遠隔授業をせざるを得ない状況にあり、コロナ禍においてグループ演習活動を充実させるには至らなかったが、制約がある中でも感染対策を徹底した上で最大限演習を行うことが出来た。一方でグループワークの振り返りの時間が足りなかったように感じる。次年度は社会人基礎力の向上のためにグループ演習活動を充実させるとともに、振り返りの時間をしっかりとることで実感の伴った授業を構築したい。</p>	<p>感染対策を徹底することはもちろん、他学の取り組みにおいて有効と思われることは率先して取り入れられるように、同領域の先生方との情報の共有化を深める。また、活動の振り返りを疎かにせず、自分以外の意見を受容しやすい環境にするためにポジティブな声かけをする。</p>
<p>－学生とのかかわりとしての目標－</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生自身が主体となって物事に取り組むことができるような環境作りや関わり、援助の仕方等について工夫していく。 ・ 学生の不安や悩み等のストレスを少しでも軽減できるよう傾聴を心掛ける。 	
今年度の反省	次年度に向けた具体的な打開策
<p>コロナ禍において2か月近く登校できなかったことや、クラスアピールの中止等、1学年は交友関係を築くことが困難だったように感じた。そのため、なるべく不安や悩みを聴くよう心掛け、円滑な学校生活が送れるように配慮した。しかし、1学年は個人での担当科目がないこともあり、担任をしているクラス以外の学生と良好な関係性が築けたとはいえないだろう。</p>	<p>授業以外の時間に学生と積極的に関わりを持つとともに、傾聴を意識することで学生の気持ちを理解し、信頼関係を構築していく。</p>

役職	講師	教員名	城山萌々
<p>－授業としての取り組み目標－</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 上手い／下手などの評価軸に依らない造形表現の内発的な楽しさを、学生自ら捉えられるようになることを目指す。 ・ 学生が、子どもの造形表現の支援者としての力を身に付けられるような授業づくりを目指す。 			
今年度の反省	次年度に向けた具体的な打開策		
<p>今年度は、感染症対策のために作業環境や内容に制限がある中での授業であったが、作ることや表現することにおいては自分と向き合ってイメージを膨らませる機会と経験を持つことができた。</p> <p>理論的な内容についての理解度を上げられるよう</p>	<p>理論についての講義と手を動かす実践のバランスやタイミングを見直す。</p> <p>説明に用いる語句を吟味し、身近な例を挙げながら丁寧に説明する。</p> <p>学生自身も理解度を意識できるよう、ふり返り</p>		

<p>に、伝え方を工夫するとともに今年度に用いた授業資料の見直しなどを図りたい。</p>	<p>の記述を具体的な内容について書けるように設定する。</p>
<p>－学生とのかかわりとしての目標－</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生ひとりひとりと丁寧に向き合い、学生が充実した大学生活を過ごしていけるような手助けをしていきたい。 ・ 学生自身が表現することを楽しめるように、環境づくりや声かけを工夫していきたい。 	
<p>今年度の反省</p>	<p>次年度に向けた具体的な打開策</p>
<p>挨拶や声かけなどを自分なりにはできる限り積極的にしていたものの、マスク姿ということもあり、なかなか顔と名前が一致せずに苦労した。</p> <p>授業内では、学生ひとりひとりの作業や作品をきめ細かく見て声をかけていくことができた。</p> <p>授業外での学生との関わりの機会が少なかったように思う。感染症対策に気を付けた上で、場づくりや機会づくりを心掛けていきたい。</p>	<p>顔と名前を覚えるというよりは人そのものを覚える意識で、関りの中から相手を捉えるようにする。</p> <p>声かけの際には目線や表情など、マスク姿でもみえる部分を意識し、話しやすい雰囲気づくりをする。</p>

令和2年度 卒業時満足度調査

												() は昨年度の値		
問①				問②				問③						
短大の施設、設備、備品の充実度について	答	人数	%	短大の施設、設備、備品の使いやすさについて	答	人数	%	短大の授業、教育課程全般について	答	人数	%			
	非常に満足	27	24.5% (21.1%)		非常に満足	30	27.3% (22.8%)		非常に満足	43	39.1% (36.6%)			
	やや満足	69	62.7% (55.3%)		やや満足	70	63.6% (59.3%)		やや満足	63	57.3% (61.8%)			
	やや不満足	11	10.0% (23.6%)		やや不満足	9	8.2% (17.9%)		やや不満足	3	2.7% (1.6%)			
	全く不満足	3	2.7% (0.0%)		全く不満足	1	1% (0.0%)		全く不満足	0	0% (0.0%)			
	(無回答)	0	0% (0%)		(無回答)	0	0% (0%)		(無回答)	1	1% (0%)			
平均	3.09 (3.16)		平均	3.17 (3.25)		平均	3.37 (3.33)							
問④				問⑤				問⑥						
専任教員の授業について	非常に満足	44	40.0% (52.0%)	非常勤教員の授業について	非常に満足	35	31.8% (34.1%)	ゼミ活動とゼミ指導教員の指導について	非常に満足	55	50.0% (56.9%)			
	やや満足	64	58.2% (44.7%)		やや満足	62	56.4% (53.7%)		やや満足	51	46.4% (39.0%)			
	やや不満足	2	2% (3.3%)		やや不満足	13	11.8% (12.2%)		やや不満足	2	1.8% (3.3%)			
	全く不満足	0	0% (0%)		全く不満足	0	0% (0.0%)		全く不満足	1	0.9% (0.0%)			
	(無回答)	0	0% (0%)		(無回答)	0	0% (0%)		(無回答)	1	1% (0.8%)			
平均	3.38 (3.47)		平均	3.20 (3.20)		平均	3.47 (3.46)							
問⑦				問⑧				問⑨						
クラス担任の指導について	非常に満足	52	47.3% (50.4%)	事務室職員の応対全般について	非常に満足	47	42.7% (53.7%)	学校行事について	非常に満足	29	26.4% (44.7%)			
	やや満足	50	45.5% (43.1%)		やや満足	58	52.7% (42.3%)		やや満足	58	52.7% (51.2%)			
	やや不満足	4	3.6% (5.7%)		やや不満足	5	5% (4.1%)		やや不満足	23	20.9% (4.1%)			
	全く不満足	4	3.6% (0.8%)		全く不満足	0	0% (0%)		全く不満足	0	0% (0.0%)			
	(無回答)	0	0% (0%)		(無回答)	0	0% (0%)		(無回答)	0	0% (0%)			
平均	3.36 (3.63)		平均	3.38 (3.59)		平均	3.05 (3.31)							
問⑩				問⑪				問⑫						
授業以外の課外活動について	非常に満足	29	26.4% (41.5%)	自分の専門職としての技能の向上について	非常に満足	35	31.8% (39.8%)	2年間（もしくは3年間）の自分の過ごし方や成長について	非常に満足	41	37.3% (44.7%)			
	やや満足	71	64.5% (54.5%)		やや満足	71	64.5% (52.8%)		やや満足	63	57.3% (48.0%)			
	やや不満足	9	8.2% (3.3%)		やや不満足	4	3.6% (6.5%)		やや不満足	6	5.5% (7.3%)			
	全く不満足	1	0.9% (0.0%)		全く不満足	0	0% (0.0%)		全く不満足	0	0% (0.0%)			
	(無回答)	0	0% (1%)		(無回答)	0	0% (1%)		(無回答)	0	0% (0%)			
平均	3.16 (3.28)		平均	3.28 (3.27)		平均	3.32 (3.43)							
問⑬				問⑭				問⑮						
友人たちとの出会いについて	非常に満足	77	70.0% (70.7%)	教員との授業以外での関わりについて	非常に満足	59	53.6% (61.0%)	事務職員との関わりについて	非常に満足	44	40.0% (51.2%)			
	やや満足	30	27.3% (29.3%)		やや満足	48	43.6% (35.8%)		やや満足	59	53.6% (45.5%)			
	やや不満足	3	2.7% (0.0%)		やや不満足	2	2% (3.3%)		やや不満足	7	6.4% (3.3%)			
	全く不満足	0	0% (0.6%)		全く不満足	1	1% (0%)		全く不満足	0	0% (0.0%)			
	(無回答)	0	0% (0%)		(無回答)	0	0% (0.0%)		(無回答)	0	0% (0%)			
平均	3.67 (3.73)		平均	3.50 (3.65)		平均	3.34 (3.48)							
問⑯				問⑰				問⑱						
就職活動への支援について	非常に満足	54	49.1% (51.2%)	トラブルを抱えた際の教職員の緊急時の対応について	非常に満足	54	49.1% (54.5%)	学生生活全般について	非常に満足	57	51.8% (50.4%)			
	やや満足	44	40.0% (43.9%)		やや満足	50	45.5% (42.3%)		やや満足	52	47.3% (47.2%)			
	やや不満足	10	9% (4.9%)		やや不満足	4	3.6% (3.3%)		やや不満足	1	0.9% (1.6%)			
	全く不満足	1	1% (0.0%)		全く不満足	1	1% (0.0%)		全く不満足	0	0% (0.0%)			
	(無回答)	1	0.9% (0.0%)		(無回答)	1	1% (0%)		(無回答)	0	0% (1%)			
平均	3.39 (3.53)		平均	3.44 (3.49)		平均	3.51 (3.56)							
問⑲				問⑳				問㉑						
日常を過ごす環境としての短大について	非常に満足	61	55.5% (48.0%)	羽陽学園短期大学に入学したこと自体を今、どう感じているか	非常に満足	72	65.5% (65.0%)	自身の学生生活を点数化すると100点満点で何点か？	90~100	58	56.3% (56.0%)			
	やや満足	45	40.9% (48.0%)		やや満足	36	32.7% (33.3%)		80~89	17	16.5% (19.8%)			
	やや不満足	4	3.6% (3.3%)		やや不満足	2	1.8% (1.6%)		70~79	15	14.6% (13.8%)			
	全く不満足	0	0% (0.8%)		全く不満足	0	0% (0.0%)		60~69	7	6.8% (6.9%)			
	(無回答)	0	0% (0%)		(無回答)	0	0% (0%)		~59	6	5.8% (3.4%)			
平均	3.52 (3.58)		平均	3.64 (3.75)		平均	85.1 (83.5)							

※平均は「非常に満足」を「4」、「やや満足」を「3」、「やや不満足」を「2」、「全く不満足」を「1」として算出。

調査は2021年3月14日、各クラスの担任教員により実施された。(協力者：110名)

作成 学内FD担当(2021/03/14)

分析：学生の課程全体を通じた成長実感(問⑩⑱)、満足度(問③)は、評定平均値の得点比率が80%以上であることから、概ね高いことが示された。新型コロナウイルス感染防止対策の影響で学生生活に制限が生じたことにより学校行事等についての満足度が昨年より低下しているため、今後課外活動の実現可能性の検討も求められるものと考えられる。

○卒業時満足度調査 自由記述

◇羽陽短大で特に評価したい点	◇学校側にもっと努力や改善を求める点
<ul style="list-style-type: none"> ・図書館が充実している。(2名) ・先生方は面倒見が良い方が多い。(2名) ・先生が優しい。(5名) ・素敵な学校。 ・毎日行きたいと思えた。 ・学校行事が楽しかった。(2名) ・トイレがきれい。(2名) ・アットホームな雰囲気。(3名) ・(校外のことで)先生が親身になって話を聞いてくれたり、相談に乗ってくれる。(3名) ・先生と学生のフレンドリーさ。(6名) ・勉強できる環境が整っている。(2名) ・先生と親しくなれる。 ・楽しかった。(8名) ・教育実習が附属だったのもあり、実習しやすかった。 ・先生と学生の距離が近くとても相談しやすい。 ・先生達がとても良い人ばかりで良かった。(3名) ・保育についての専門性を高められた。 ・W i F i がある。(3名) ・大切な友だちにめぐり会えた事。(4名) ・本がたくさんある。 ・自販機がある。(2名) ・電子レンジ、ポットがある。 ・先生と友達最高！！ ・ピアノ練習室がきれい、たくさんある。(4名) ・一人ひとり主人公になれる場面が必ずある。 ・ゴミ箱がたくさんあって便利 ・担任が良かった。 <p>★皆さん自身の学生生活を点数化すると100点満点で何点をつけますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1200点、120点(2名)、200点 	<ul style="list-style-type: none"> ・寒い(8名) ・暑い(3名) ・購買があると良い。(5名) ・衛生面 ・コンビニを作ってほしい。(3名) ・学園祭などのイベントがなかった。 ・トイレをもっときれいにしてほしい。 ・W i F i 設備など授業でスマホを使うことが多かったからちゃんと完備してほしい。(2名) ・学食までいなくてももう少し食の整備をしてほしい。(パンだけでなくおにぎりなど) ・学生への態度が気になる先生がいた。 ・食堂が欲しい。(4名) ・自販機の充実。 ・食堂や移動販売の頻度や種類を多くしてほしい。 ・机が小さい。 ・椅子がかたい。 ・教室と空き教室がきたない。 ・行事をもっと増やしてほしい。 ・コロナの影響でクラアピや学祭が制限され、少し残念。

学習成果等アンケート集計結果

令和2年12月実施

【1】あなたが本学への入学を決定された理由を強い順に3つ下記から選んでマークしてください。

	第一理由	第二理由	第三理由
1. 建学の理念に共感したから	1	1	3
2. 入試科目があっていたから	0	0	3
3. 自分の学力にあっていたから	3	3	4
4. 学びたい学部・学科・コースがあったから	47	11	9
5. カリキュラムが充実しているから	2	6	13
6. 資格を取得出来るから	28	29	13
7. 就職に役立つから	1	11	8
8. キャンパスの施設・設備が良いから	0	5	4
9. 地元の大学だから	2	15	22
10. 大学の知名度が高かったから	0	0	0
11. 大学が設置されている地域に魅力があるから	0	0	0
12. 学費が安いから	0	2	1
13. 親や教員に勧められたから	2	3	6
14. 本学しか合格しなかったから	2	0	0
15. その他	0	1	1

「第一理由」「第二理由」「第三理由」それぞれの回答数を集計し、「第一理由」回答数に「3点」、「第二理由」回答数に「2点」、「第三理由」回答数に「1点」をかけた上で合計し、その合計点の上位3位。

第一理由	第二理由	第三理由
4	6	9

【2】本学の授業に関する以下の項目について、該当する数字をそれぞれ一つ選んでマークしてください。

質問内容	回答内容(点数)					回答者計	平均値
	はい 5	まあそう ある 4	どちらとも 言えない 3	あまりそうと は言えない 2	いいえ 1		
(1) 興味がもてる授業が多い	38	41	9	0	0	88	4.33
(2) ためになる授業が多い	48	38	2	0	0	88	4.52
(3) わかりやすい授業が多い	20	56	11	1	0	88	4.08
(4) 主体的に考え行動する授業が多い	17	42	27	2	0	88	3.84
(5) 就職に役立つ授業が多い	50	31	7	0	0	88	4.49
(6) 国際性を培うことができる授業が多い	9	31	31	17	0	88	3.36
(7) 授業が良くなるよう工夫をしている教員が多い	31	43	14	0	0	88	4.19
(8) 授業や学生指導に対して熱心な教員が多い	41	41	5	1	0	88	4.39

【3】授業を受けて、あなたは下記の知識や能力を身につけることができましたか。該当する数字をそれぞれ一つ選んでマークしてください。

質問内容	回答内容(点数)					回答者計	平均値
	はい 5	まあそう ある 4	どちらとも 言えない 3	あまりそうと は言えない 2	いいえ 1		
(1) 幅広い教養	40	40	6	0	0	86	4.40
(2) 専門知識や技能	41	42	3	0	0	86	4.44
(3) 課題解決能力(課題を発見し、解決する力)	20	43	23	0	0	86	3.97
(4) 物事を批判的に捉え思考する力	16	41	27	1	1	86	3.81
(5) 情報機器を使いこなす能力	10	26	38	8	4	86	3.35
(6) 外国語を運用する能力	4	20	36	19	7	86	2.94
(7) コミュニケーション能力(議論・発表・協働する力)	19	44	22	1	0	86	3.94
(8) リーダーシップをとる力	6	27	37	13	1	84	3.29

【4】本学の改善に向けて今後取り組むべき事項について、該当する数字をそれぞれ一つ選んでマークしてください。

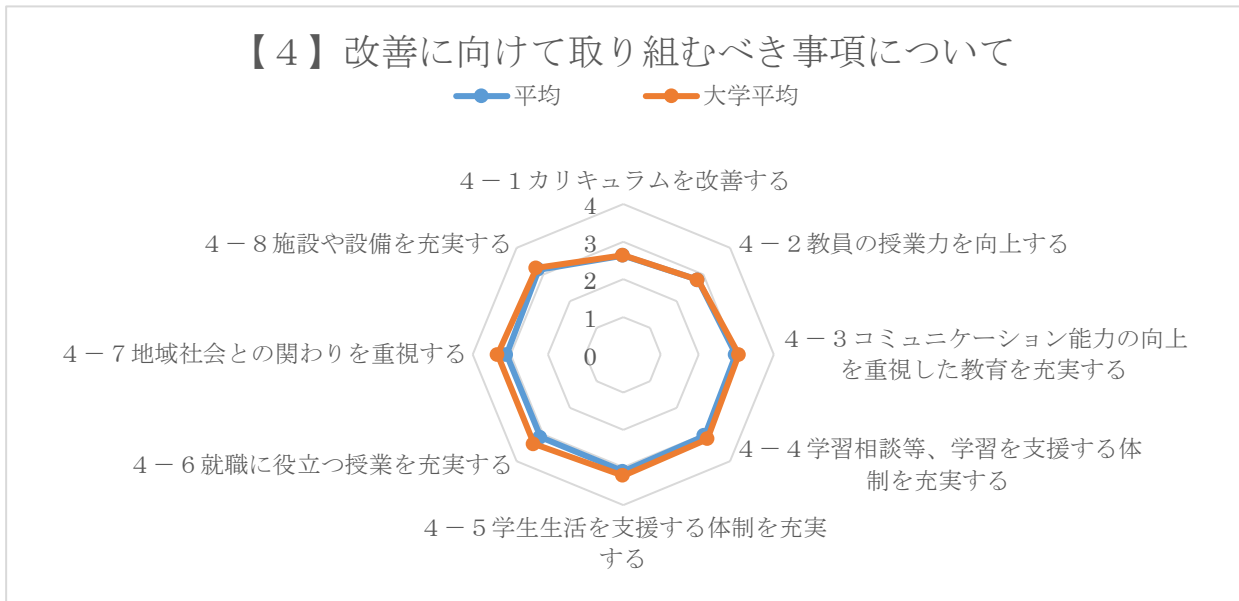
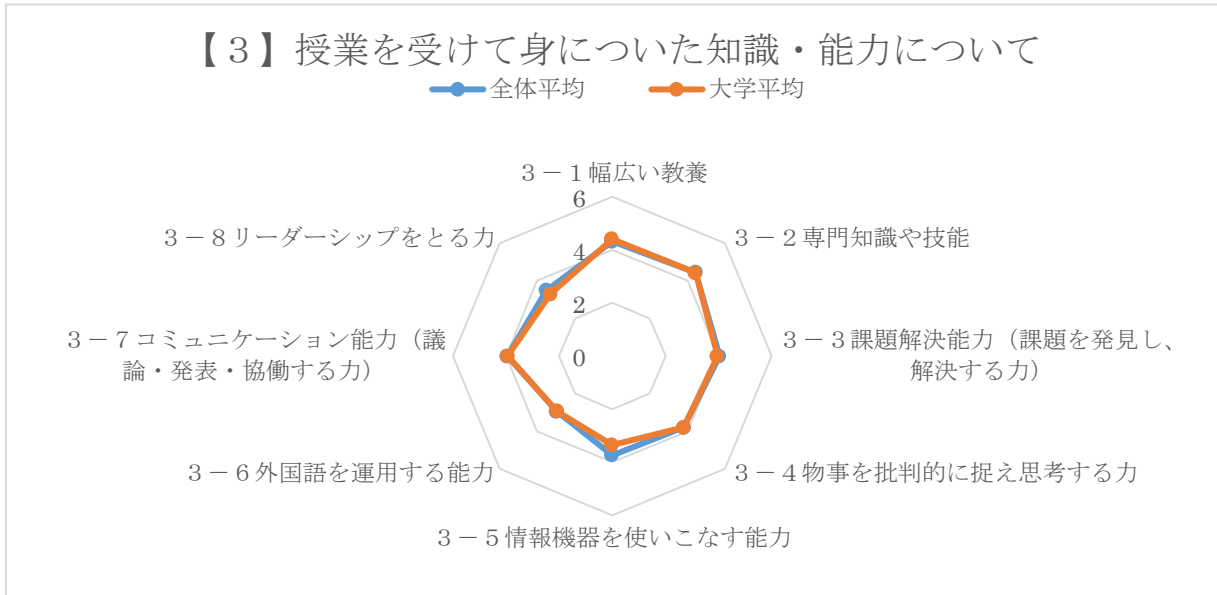
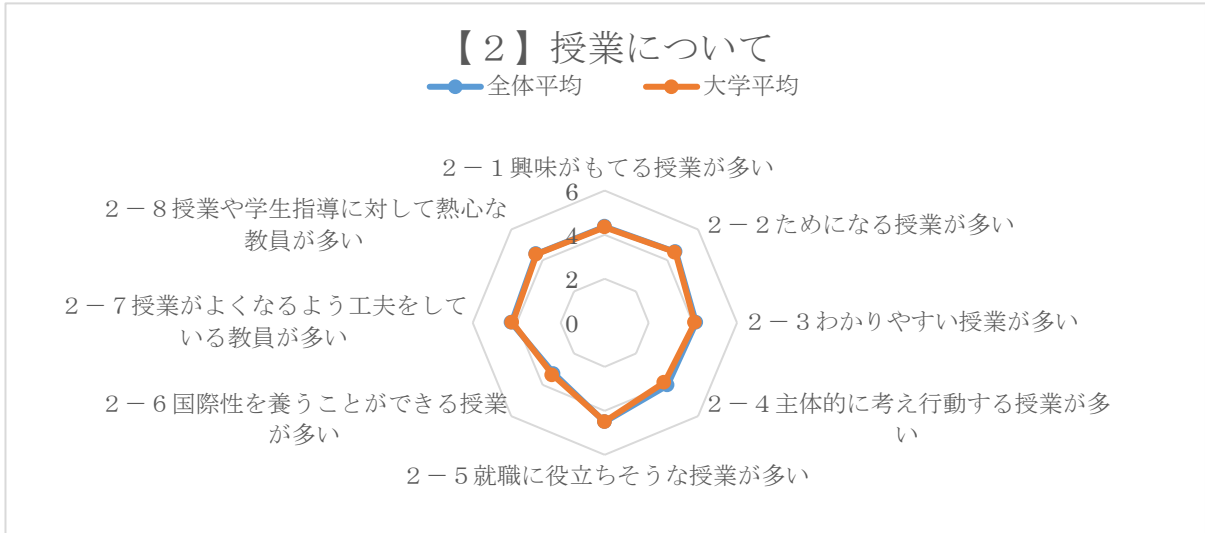
質問内容	回答内容(点数)					回答者計	平均値
	はい 5	まあそう ある 4	どちらとも 言えない 3	あまりそうと は言えない 2	いいえ 1		
(1) カリキュラムを改善する	4	13	34	16	18	85	2.64
(2) 教員の授業力を向上する	5	20	29	17	15	86	2.80
(3) コミュニケーション能力の向上を重視した教育を充実する	9	23	30	13	11	86	3.07
(4) 学習相談等、学習を支援する体制を充実する	8	25	32	16	5	86	3.17
(5) 学生生活を支援する体制を充実する	10	24	35	9	8	86	3.22
(6) 就職に役立つ授業を充実する	14	27	30	6	9	86	3.36
(7) 地域社会との関わりを重視する	12	27	31	10	6	86	3.34
(8) 施設や設備を充実する	14	25	26	11	10	86	3.26

【5】この一年間において、授業の予習・復習時間は1日につき平均何時間ですか。該当する数字を一つ選んでマークしてください。

質問内容	回答内容(点数)					回答者計	平均値
	3時間以上 5	2時間以上 3時間未満 4	1時間以上 2時間未満 3	30分以上 1時間未満 2	30分未満 1		
	1	4	31	27	23	86	2.22

【6】あなたは、本学に入学して良かったと思いますか。該当する数字を一つ選んでマークしてください。

質問内容	回答内容(点数)					回答者計	平均値
	はい 5	まあそう ある 4	どちらとも 言えない 3	あまりそうと は言えない 2	いいえ 1		
	45	34	5	2	0	86	4.42



学習成果等アンケート集計結果

令和2年12月実施

【1】あなたが本学への入学を決定された理由を強い順に3つ下記から選んでマークしてください。

	第一理由	第二理由	第三理由
1. 建学の理念に共感したから	0	0	3
2. 入試科目があっていたから	0	0	2
3. 自分の学力にあっていたから	3	3	9
4. 学びたい学部・学科・コースがあったから	34	22	10
5. カリキュラムが充実しているから	6	6	6
6. 資格を取得出来るから	33	23	13
7. 就職に役立つから	5	17	11
8. キャンパスの施設・設備が良いから	1	2	4
9. 地元の大学だから	4	7	15
10. 大学の知名度が高かったから	1	0	1
11. 大学が設置されている地域に魅力があるから	0	1	3
12. 学費が安いから	0	2	0
13. 親や教員に勧められたから	1	7	7
14. 本学しか合格しなかったから	0	0	3
15. その他	4	2	2

「第一理由」「第二理由」「第三理由」それぞれの回答数を集計し、「第一理由」回答数に「3点」、「第二理由」回答数に「2点」、「第三理由」回答数に「1点」をかけた上で合計し、その合計点の上位3位。

第一理由	第二理由	第三理由
6	4	7

【2】本学の授業に関する以下の項目について、該当する数字をそれぞれ一つ選んでマークしてください。

回答内容(点数)	はい	まあそう ある	どちらとも 言えない	あまりそうと は言えない	いいえ	回答者計	平均値
質問内容	5	4	3	2	1		
(1) 興味をもてる授業が多い	47	37	8	0	0	92	4.42
(2) ためになる授業が多い	59	32	1	0	0	92	4.63
(3) わかりやすい授業が多い	37	38	17	0	0	92	4.22
(4) 主体的に考え行動する授業が多い	35	41	16	0	0	92	4.21
(5) 就職に役立つ授業が多い	57	31	4	0	0	92	4.58
(6) 国際性を培うことができる授業が多い	16	19	32	22	3	92	3.25
(7) 授業が良くなるよう工夫をしている教員が多い	39	40	12	1	0	92	4.27
(8) 授業や学生指導に対して熱心な教員が多い	51	31	10	0	0	92	4.45

【3】授業を受けて、あなたは下記の知識や能力を身につけることができましたか。該当する数字をそれぞれ一つ選んでマークしてください。

回答内容(点数)	はい	まあそう ある	どちらとも 言えない	あまりそうと は言えない	いいえ	回答者計	平均値
質問内容	5	4	3	2	1		
(1) 幅広い教養	40	41	10	0	1	92	4.29
(2) 専門知識や技能	48	41	3	0	0	92	4.49
(3) 課題解決能力(課題を発見し、解決する力)	29	47	16	0	0	92	4.14
(4) 物事を批判的に捉え思考する力	21	40	26	4	1	92	3.83
(5) 情報機器を使いこなす能力	29	48	13	2	0	92	4.13
(6) 外国語を運用する能力	9	19	37	21	6	92	3.04
(7) コミュニケーション能力(議論・発表・協働する力)	28	42	19	3	0	92	4.03
(8) リーダーシップをとる力	16	41	28	5	2	92	3.70

【4】本学の改善に向けて今後取り組むべき事項について、該当する数字をそれぞれ一つ選んでマークしてください。

回答内容(点数)	はい	まあそう ある	どちらとも 言えない	あまりそうと は言えない	いいえ	回答者計	平均値
質問内容	5	4	3	2	1		
(1) カリキュラムを改善する	6	16	33	8	28	91	2.60
(2) 教員の授業力を向上する	10	19	28	11	23	91	2.80
(3) コミュニケーション能力の向上を重視した教育を充実する	11	22	27	8	22	90	2.91
(4) 学習相談等、学習を支援する体制を充実する	11	23	25	8	23	90	2.90
(5) 学生生活を支援する体制を充実する	13	21	26	6	23	89	2.94
(6) 就職に役立つ授業を充実する	11	21	25	10	23	90	2.86
(7) 地域社会との関わりを重視する	8	22	30	7	23	90	2.83
(8) 施設や設備を充実する	16	22	26	10	16	90	3.13

【5】この一年間において、授業の予習・復習時間は1日につき平均何時間ですか。該当する数字を一つ選んでマークしてください。

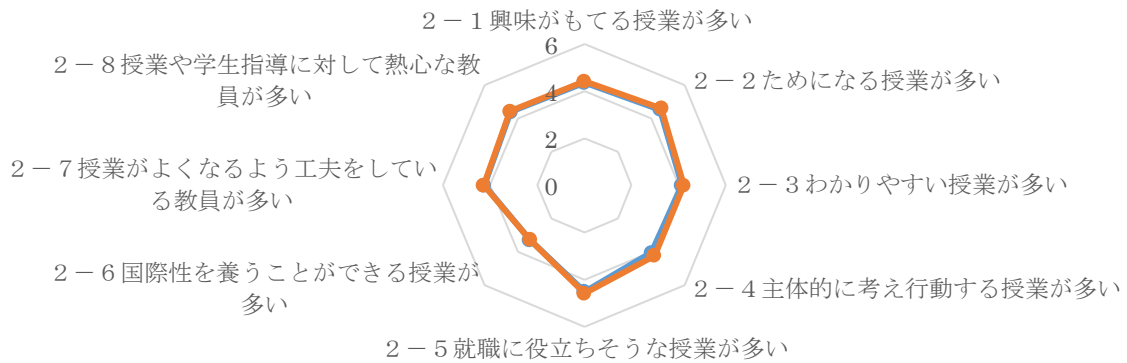
回答内容(点数)	3時間以上	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満	回答者計	平均値
	5	4	3	2	1		
	0	1	18	31	42	92	1.76

【6】あなたは、本学に入学して良かったと思いますか。該当する数字を一つ選んでマークしてください。

回答内容(点数)	はい	まあそう ある	どちらとも 言えない	あまりそうと は言えない	いいえ	回答者計	平均値
	5	4	3	2	1		
	63	23	6	0	0	92	4.62

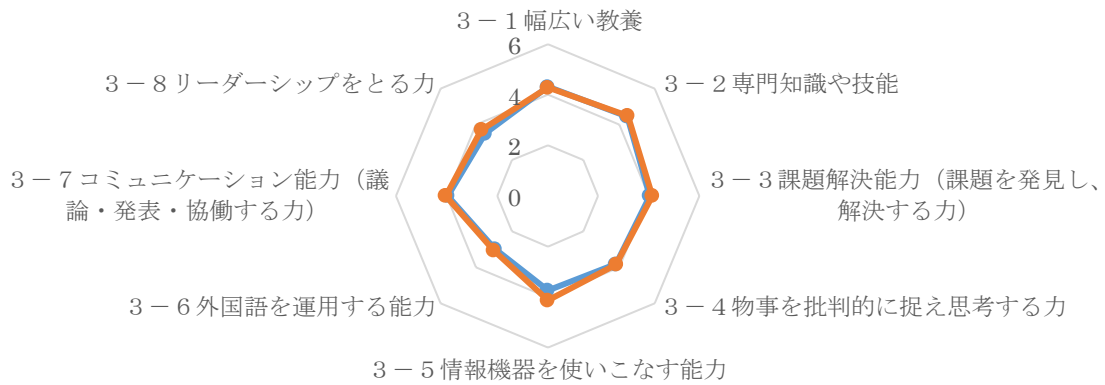
【2】授業について

●全体平均 ●大学平均



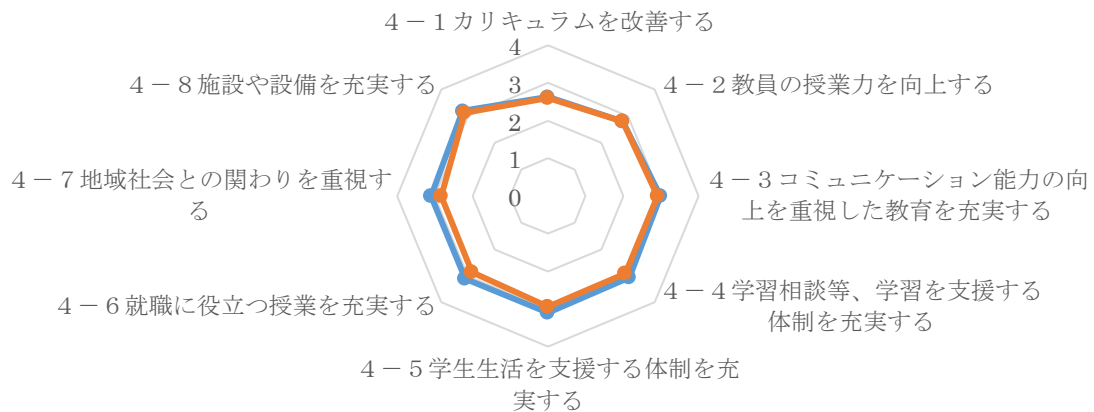
【3】授業を受けて身についた知識・能力について

●全体平均 ●大学平均



【4】改善に向けて取り組むべき事項について

●平均 ●大学平均



学習成果等アンケート集計結果

令和2年12月実施

【1】あなたが本学への入学を決定された理由を強い順に3つ下記から選んでマークしてください。

	第一理由	第二理由	第三理由
1. 建学の理念に共感したから	0	0	2
2. 入試科目があっていたから	0	1	0
3. 自分の学力にあっていたから	1	0	1
4. 学びたい学部・学科・コースがあったから	7	0	1
5. カリキュラムが充実しているから	0	3	2
6. 資格を取得出来るから	4	4	2
7. 就職に役立つから	0	2	3
8. キャンパスの施設・設備が良いから	0	0	0
9. 地元の大学だから	0	0	0
10. 大学の知名度が高かったから	0	0	0
11. 大学が設置されている地域に魅力があるから	0	0	0
12. 学費が安いから	0	0	0
13. 親や教員に勧められたから	0	1	0
14. 本学しか合格しなかったから	0	0	0
15. その他	0	0	0

「第一理由」「第二理由」「第三理由」それぞれの回答数を集計し、「第一理由」回答数に「3点」、「第二理由」回答数に「2点」、「第三理由」回答数に「1点」をかけた上で合計し、その合計点の上位3位。

第一理由	第二理由	第三理由
4.6	5	7

【2】本学の授業に関する以下の項目について、該当する数字をそれぞれ一つ選んでマークしてください。

回答内容(点数)	はい	まあそう ある	どちらとも 言えない	あまりそう は言えない	いいえ	回答者計	平均値
質問内容	5	4	3	2	1		
(1) 興味をもてる授業が多い	3	7	2	0	0	12	4.08
(2) ためになる授業が多い	4	6	2	0	0	12	4.17
(3) わかりやすい授業が多い	2	7	3	0	0	12	3.92
(4) 主体的に考え行動する授業が多い	5	2	5	0	0	12	4.00
(5) 就職に役立つような授業が多い	5	4	3	0	0	12	4.17
(6) 国際性を培うことができる授業が多い	0	2	8	1	1	12	2.92
(7) 授業が良くなるよう工夫をしている教員が多い	6	4	2	0	0	12	4.33
(8) 授業や学生指導に対して熱心な教員が多い	7	2	3	0	0	12	4.33

【3】授業を受けて、あなたは下記の知識や能力を身につけることができましたか。該当する数字をそれぞれ一つ選んでマークしてください。

回答内容(点数)	はい	まあそう ある	どちらとも 言えない	あまりそう は言えない	いいえ	回答者計	平均値
質問内容	5	4	3	2	1		
(1) 幅広い教養	4	5	2	1	0	12	4.00
(2) 専門知識や技能	5	5	2	0	0	12	4.25
(3) 課題解決能力(課題を発見し、解決する力)	2	5	5	0	0	12	3.75
(4) 物事を批判的に捉え思考する力	1	6	5	0	0	12	3.67
(5) 情報機器を使いこなす能力	1	5	6	0	0	12	3.58
(6) 外国語を運用する能力	0	2	5	1	4	12	2.42
(7) コミュニケーション能力(議論・発表・協働する力)	2	3	6	0	1	12	3.42
(8) リーダーシップをとる力	1	7	2	1	1	12	3.50

【4】本学の改善に向けて今後取り組むべき事項について、該当する数字をそれぞれ一つ選んでマークしてください。

回答内容(点数)	はい	まあそう ある	どちらとも 言えない	あまりそう は言えない	いいえ	回答者計	平均値
質問内容	5	4	3	2	1		
(1) カリキュラムを改善する	0	2	6	3	1	12	2.75
(2) 教員の授業力を向上する	0	2	6	3	1	12	2.75
(3) コミュニケーション能力の向上を重視した教育を充実する	0	2	8	2	0	12	3.00
(4) 学習相談等、学習を支援する体制を充実する	1	3	6	2	0	12	3.25
(5) 学生生活を支援する体制を充実する	0	5	6	1	0	12	3.33
(6) 就職に役立つ授業を充実する	2	3	4	2	1	12	3.25
(7) 地域社会との関わりを重視する	3	1	6	2	0	12	3.42
(8) 施設や設備を充実する	1	3	5	3	0	12	3.17

【5】この一年間において、授業の予習・復習時間は1日につき平均何時間ですか。該当する数字を一つ選んでマークしてください。

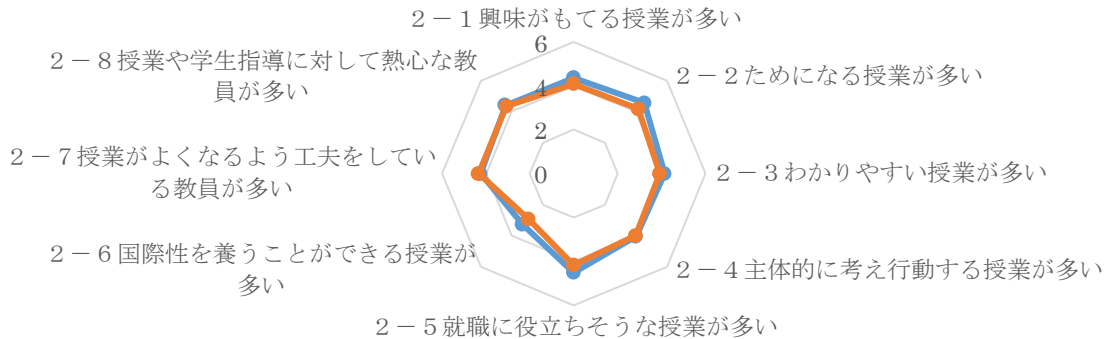
回答内容(点数)	3時間以上	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満	回答者計	平均値
	5	4	3	2	1		
	3	4	1	3	1	12	3.42

【6】あなたは、本学に入学して良かったと思いますか。該当する数字を一つ選んでマークしてください。

回答内容(点数)	はい	まあそう ある	どちらとも 言えない	あまりそう は言えない	いいえ	回答者計	平均値
	5	4	3	2	1		
	6	2	2	0	2	12	3.83

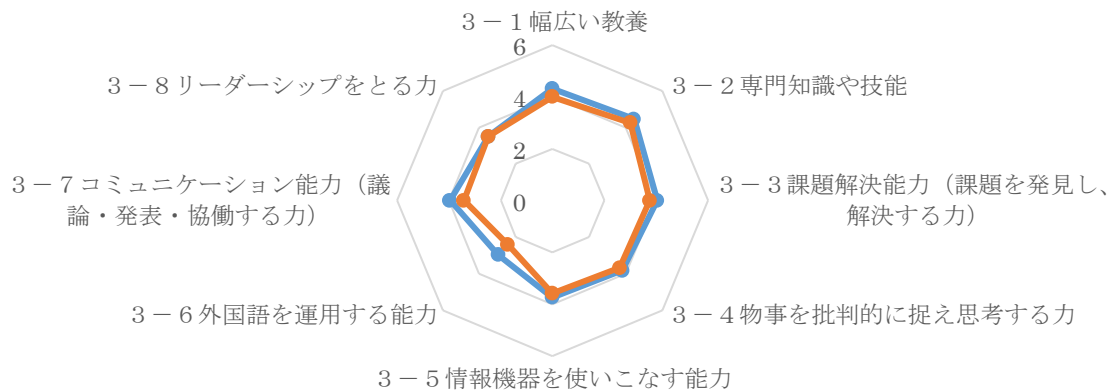
【2】授業について

● 全体平均 ● 大学平均



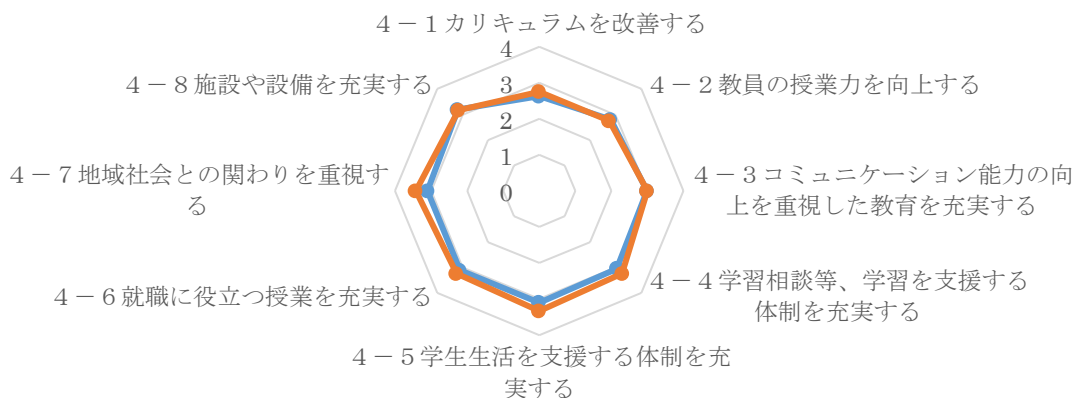
【3】授業を受けて身についた知識・能力について

● 全体平均 ● 大学平均



【4】改善に向けて取り組むべき事項について

● 平均 ● 大学平均



羽陽学園短期大学 FD・SD 活動報告書
(2020 年度)
通巻 14 巻

2021 年 6 月 1 日

編集 FD・SD 推進委員会

渡邊 洋一

柏倉 弘和

松田 知明

太田 裕子

宮地 康子

白崎 直季

城山 萌々

今野 清

浦山 仁一

鈴木 雄二

芳賀 亜樹子

発行者 渡邊 洋一

発行所 羽陽学園短期大学 FD・SD 推進委員会